

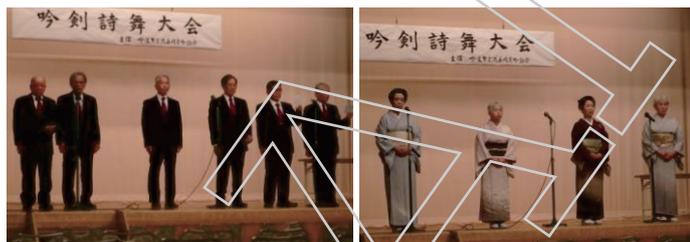
待望の[吟と舞]が開催されました！！

3年ぶりに「吟剣詩舞大会（吟と舞）」がやっと開催されました。開催に当たり10月6日にご逝去された前会長小林清夫（賀清風）先生の遺影を飾り、黙祷を捧げ、長岡京吟詠会発展のため、長年にわたりご尽力頂いたことに対し、会より感謝状を贈呈しました。そして、合吟をスタートに独吟、剣詩舞にと皆さん久し振りの大会で元気に楽しく発表されました。



また、磯部賀堂宗家も遠路お越しいただき、初めから最後まで興味深くご鑑賞され「寒梅」を披露してくださいました。

今回はコロナの影響で半日の大会となりましたが、新入会員の出吟もあり現代詩や今様などの新しい試みも登場し充実した大会となりました。来年はさらに発展させ、またこれまでの大会のように、一般の方にもご来場して頂き、ご鑑賞の部も実施したいものです。



昇格のお知らせ

この度11月1日付けで、吉岡美保さん（長天）が一級に昇格されました。おめでとうございます。さらに上を目指して頑張ってください。（事務局）

宗範に昇格おめでとうございます！！

この度11月1日付けで、横山賀秀邦先生が宗範に昇格されて、姫路での証書授与式に出席されました。今後とも吟道賀堂流の発展と長岡京吟詠会の吟詠力向上の為に指導をよろしく願いいたします。（事務局）

吟詠・剣詩舞道祭を鑑賞して 市丸賀秀知

11月6日、宇治市文化センターで京都府連の「令和4年度吟詠・剣詩舞道祭」が開催されました。1年間の各流派の活動の総決算が3年ぶりに行われ、各流派による合吟に、わが賀堂流京都本部から男子16名が代表として参加しました。その後、園部高等学校の生徒の皆さんによる若々しい吟詠や剣詩舞が披露され感動し、未来につながる希望が湧きました。また、本年度の一般一部と指導者の部の吟士権者決定決勝コンクールが行われ、どの吟者も優劣つけがたく、聞き惚れてしまいました。昼からは構成吟舞「四時 愛吟の葉」という題で、各流派から選抜吟士・舞士が出演され、賀堂流京都本部からは、吟詠に米山賀秀琳さん、詩舞に宮本凱薇さん、小林扇頼さんが出られ、見ごたえ、聴きごたえのある構成吟剣詩舞を披露されました。来年もまた開催され、その時にはぜひまた参加したいと思っております。

審査員研修会に参加して

長尾賀秀剣

会の若返りの一環として、審査員研修会が計画され、第1回が11月16日に実施されました。指導者研修会を終了した人が参加対象者と言うことで、若くはないですが私も出席しました。吟に点数をつけるのは余り好きでもなかったし、全く初めての経験でした。審査方法、審査のポイント、府連方式、流吟符節（賀堂流）の審査などの説明を受けた後ただちに実践。かつてのコンクールでの録音を聞いて、即点数をつける。そしてその理由を説明する。講師の先生の解説。その繰り返しをして、先生の点数に近ければホッと遠ければガックリ。

指定された観点について評価しながらも、最終的には総合的な出来映えを評価出来ることの大切さを学んだように思います。そのためには多くの優れた吟を聞くこと、審査の場馴れが必要であることをひしひしと感じた研修会でした。でも全くはじめての審査員としては、まあまあ出来だったかなと思っております。計3回の研修なので、あと2回で少しは腕を上げるべく勉強します。

R4/12・1月の予定



長岡京吟詠会

12/ 4(日)	13:00	一般研修会	こらさ交流室
12/ 7(水)	13:30	連絡会	公民館 学習室2
12/11(日)	14:00	企画・研修部会	産文2F 1会議室
12/14(水)	13:30	運営会	公民館 学習室1
12/14(水)	14:45	執行部会	"
12/21(水)	13:30	連絡会	公民館 学習室2
12/25(日)		長岡天満宮 正式参拝	
1/11(水)	13:30	連絡会	公民館 学習室2
1/11(水)	14:45	企画・研修部会	"
1/18(水)	13:30	運営会	公民館 学習室1
1/18(水)	14:45	執行部会	"
1/25(水)	13:30	連絡会	産文3F 1会議室

京都本部・総本部

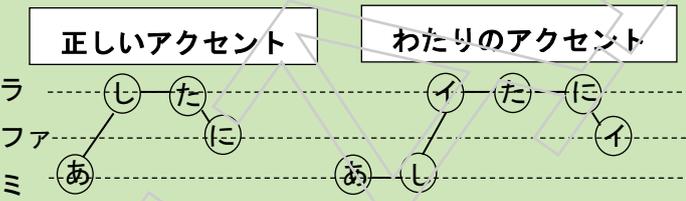
府連・府総連・財団

1/21(土) 連盟役員新年懇親会 ホテルオークラ京都

詩吟の基礎技術その5

高橋賀秀正

詩吟の基礎技術(その4)でアクセントの種類〔平板、中高、頭高、尾高〕を紹介しましたが、音の低い拍から高い拍(下図の「あ」→「し」)あるいは高い拍から低い拍(下図の「た」→「に」)へ移動させる時、子音が前の拍の音階に引っ張られて母音になってから移動後の音階になる事を「わたり」と言い全国吟詠コンクールでは減点対象になります。



裏を見せる凄さ

江戸時代後期の僧、良寛の辞世の句「うらを見せおもてを見せてちるもみぢ」について、俳優樹木希林さんは「うらから始まるところがすごい。年や経験を重ねても、人間は表裏を持ち続けているという本質を見抜いた人の句ね。こうありがたい」と語っておられます。

また、別の良寛の句「散る桜 残る桜も 散る桜」も好まれたそうです。高齢者が、何事も恐れずに益々楽しく有意義な時間を持つにはどう心得るべきか参考になるお話ですね。ともあれ、まずは吟道を生涯の友としていつまでも魅力ある吟を追求し「晩節を汚すことなく」楽しく健康で充実した時間にしたいものです。

長建

令和4年度 新入会員



坂本 裕美子 (さかもと ゆみこ)
 住 所：長岡京市
 入 会：令和4年10月より
 クラブ：秀邦詩吟クラブ

スポーツジムで、気功やヨガで、丹田で呼吸することを教わりました。腹式呼吸の素晴らしさを知り、お腹から声を出すことは、気持ちが良いだろうなあ、なんとなく思っていました。そんな折、市丸先生とお知り合いになり、さりげなく『詩吟をやってみない??』とお誘いをいただき、お腹から声を出す機会を得ました。ところが詩吟の知識は全くなく、理解力もないので、やっていけるかどうか不安でいっぱいです。皆様方の裾の方で、ボチボチやって行けたらと思いますので、何卒よろしくお願い致します。

私の詩吟史

本庄賀秀峰



私が詩吟をはじめたのは昭和48年でした。そのころ勤めていた「立石電機(今の”オムロン”)」の長岡京市にあった研究所で会社のクラブとして始めたのが始まりです。その年、「長岡京吟詠会結成記念吟詠大会」が開かれ、初めて1年もたっていない私も、ご来賓や先輩(と言っても1年だけですが)の皆さんの前で吟じたのを覚えています。

それから9年。「師範代」の資格をいただいたのをきっかけに、住まいのある亀岡市で「亀岡詩吟クラブ」を作りました。はじめは知人の紹介で来られた方や家内と細々と自宅で教本にそって勉強をしました。この頃は、今のようにコンダクターなどなく、すべて音は調子笛を使って、その人の音階に合わせた口移しでのお稽古でした。その後、ピアノカを子供が使っており、長岡京での勉強会で音程の勉強をしたことから、このピアノカを使った発声を始め、音階が安定しました。今は専用のコンダクターがあり助かっています。

この間、教えることの難しさ、自分がいかに不勉強であるかを実感し、譜節の勉強や、発声の基本、詩文の勉強など自己研鑽・研究に努め、生徒さんに少しでも上達してもらえるように日々努めています。

今は4人の生徒さんと月2回の勉強会を市の文化施設をお借りし開いており、教本の素読と漢詩の解説、譜節の説明と範吟から始め、各自の吟詠にアドバイスを行っています。各自定期発表会や吟士権大会府連のコンクールなどでの入賞を目標に日々楽しく、そして真剣にお稽古を続けています。亀岡のお知り合いで詩吟にご興味のある方がおられればぜひご紹介ください。



『ぎんまい長岡京』 編集室
 編集委員長 尻枝賀秀道
 編集委員 市丸、櫻澤、西本、後藤、宮小路
 ※連絡・問合せ先 尻枝賀秀道
 Tel: 075-954-9092